



## 【理念】

## 「愛し愛される病院」

## 【基本指針】

- 1、私たちは、患者様、ご家族に「おもいやり」をもって接します。
- 1、私たちは、地域に信頼され貢献できる医療を提供いたします。
- 1、私たちは、患者様の在宅復帰を支援いたします。
- 1、私たちは、診療記録を正確に記載いたします。
- 1、私たちは、自己研鑽しよりよい病院を目指します。

## 【患者様の権利】

- 1、患者様は医療に関する説明を十分受けた上で、治療を受ける権利又は拒否する権利が有ります
- 2、患者様は医師、医療従事者が患者様の知り得た個人情報を守られる権利が有ります
- 3、患者様は病院、医師を自由に選ぶ権利が有ります
- 4、患者様は安全で適切な医療を平等に受ける権利が有ります
- 5、患者様は診療録の開示を求める権利が有ります

## 新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。

杉並リハビリテーション病院が101全ベッド回復期リハビリテーション病棟になり、11回目のお正月を迎えました。

回復期リハビリテーション病棟は、脳梗塞・脳出血・くも膜下出血などの脳血管疾患や大腿骨頸部骨折などの患者さまが、安全に生活され、社会参加することを目標として、日常生活動作能力の向上などを目的にリハビリテーションを集中して行うための病棟です。

皆様に満足いただける病院を目指して、利用されている方が望まれているリハビリテーションを提供することを念頭におき、患者さまご家族からの“元気になって帰れます、ありがとう”との声に支えられて、皆様のリハビリテーションに取り組んでおります。

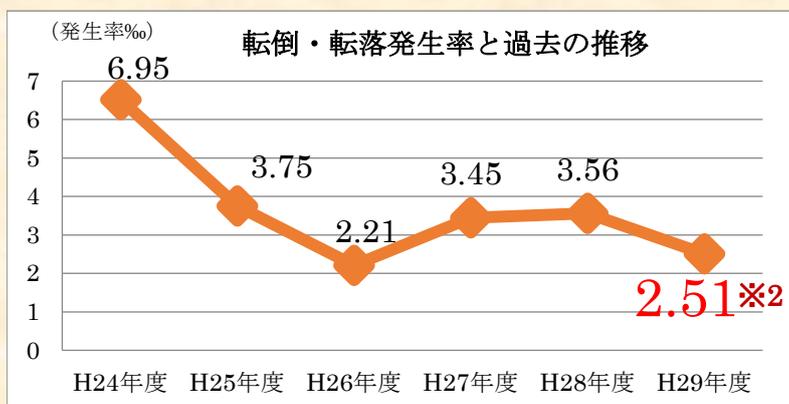
入院された患者さまが安心して自宅での生活にもどられますよう、患者さまご家族の皆様ならびに地域から信頼され、地域に貢献する魅力ある病院として、「愛し愛される病院」の理念の下、職員一同、今年も熱い思いで取り組んでまいります。

～多職種協働で課題を解決！～

## 回復期リハビリテーションにおける医療安全(患者安全)の問題点

当院への入院の対象となる患者さまは、脳梗塞や脳出血など脳血管疾患が6割、骨折などの整形疾患が4割を占めており、麻痺による機能の障害や手術による筋力の低下がある方がほとんどです。皆さま、リハビリや日常生活で動作を反復練習することで「食べる」「着替える」「歩く」「トイレで排泄する」など、自宅生活を踏まえた機能回復を目指しています。“急性期治療”で安静が必要な状況から、“回復期リハビリ”において体を動かすことが日常となることで、入院生活が活動的になります。その過程において一番起こりやすい事故が『転倒・転落(転ぶ・落ちる)』です。

リハビリで歩行訓練を行えば、病室の中でも試したくなるのが患者さまの心理です。なかには、「認知機能の低下」や「高次脳機能障害」により危険の認識がないまま、出来ないことを一人で実行し転倒・転落に至るケースもあります。いかに患者さまの行動を制限することなく、安全な環境で機能を向上させることができるかが課題となります。回復期リハビリの専門病院における医療安全(患者安全)とは、患者さまの機能を低下させず「転倒・転落」を予防しながら日常生活動作を獲得すること、であるといえます。



▲ 当院が回復期となったH20年から6%台と高かった「転倒・転落率」は、H24年5月転倒・転落予防チームの結成により2～3%に下がった。

※1 発生率%

$\frac{\text{期間中に発生した転倒・転落の件数}}{\text{期間中の入院患者の延べ人数}} \times 1000(\%)$

※2 上尾中央医科グループH29年度回復期リハ病棟を有する16病院の平均は3.66%となる。

先にあげたような認知機能の低下などにより、近年は身体の抑制を必要とする患者さまの入院が増えており、あらたに多職種協働の「身体抑制対策チーム」を結成して、抑制をなくす対策立案と実施に取り組んでおり、以前は「車椅子ベルト」を用いることもありました。今は使用を完全廃止するに至っております。今後の取り組みとしては、紹介元病院で「体幹抑制帯」を使用している患者さまを受け入れる際に、抑制の必要性や代替えを検討し、早期に解除できるよう環境を整えていきたいと考えています。

医療安全管理者 加藤まゆみ(看護部・科長)

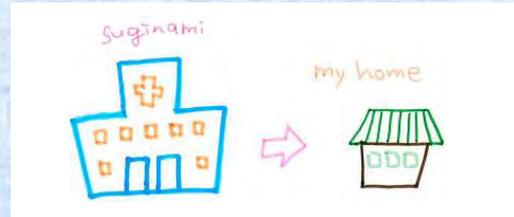
5年ほど前までは『転倒・転落率』が非常に高く(H24年度、発生率:6.95%※1)、問題解決のため多職種協働による「転倒・転落予防チーム」を結成しました。それまでは病棟看護師だけで対応していたことが、理学療法士が加わることで専門職の視点から改善策が考えられるようになり、さまざまな対策立案が可能になりました。転倒しやすい場面には「低い位置の物を取るとき」「靴を履くとき」「方向転換する時」など、一定のパターンがあります。特に、リハビリによって一人で出来るが増える時期に転倒事故が起こりやすいため、患者さまへの「教育パンフレット」を作成するなどして指導を継続しています。



当院での勉強会での様子▲

## 在宅復帰支援におけるリスク管理とは～ある患者さまの退院まで～

歩行や方向転換時ふらつきが強く、転倒リスクの高い女性の患者さまでした。同居されているご家族は多忙でほぼ独居状態となってしまうため、薬の管理や食事・水分管理、室温管理をどうするのか、在宅復帰には多くの課題が残っていました。



キーパーソンとなったご息女・ケアマネジャーは安全な生活を送ることが出来る施設入所を勧めましたが、患者さまは「もう一度家に帰りたい」と話は並行線でした。ご希望を叶えるためにはどうしたら良いのか、退院期日が迫る中、万が一に備えてショートステイの手配等の相談をケアマネジャーとも繰り返しました

そのような中、患者さまが「もう一度家に帰りたい！」と電話でご家族に直接訴えたのです。この「もう一度」の重みが皆を突き動かしました。ついに多忙なご家族が来院され、リハビリ見学し「これじゃすぐ転ぶ」と自宅生活が容易でないこと、様々な準備が必要なことを共有することができました。家屋調査ではベッドからトイレまでの動線等を一緒に検討し、家族指導も重ね、いよいよ外泊訓練です。



この体験が元となり、退院前カンファレンスではご家族から、「出勤前にペットボトル・薬・軽食をベッドサイドに置いておこう」「帰宅時や就寝前にトイレの声掛けをしよう」等、具体的な提案がありました。食事提供・安否確認・機能維持目的でデイサービス利用の提案に対して、患者さまも「前はいやだと思っていたけど行かなきゃね」と受け入れ、サービスの柱が決定しました。

退院を迎え、ご家族から「どこまでやれるかわからないけれど、頑張ってみます」との言葉が聞かれ、「あの子ヤンチャだけど、優しいところあるのよ」と母の表情に戻る患者さま。リスクに気付く事、共に対策を検討すること、「過程」そのものがリスク管理と考え、支援しています。

地域連携室 ひらやま のりこ 平山 紀子

## 患者さまの声 (接遇委員会より)

・3Fの浴室環境について、浴室を歩くとき、手すりが使いづらい

【回答】 脱衣所のかご置き場を移動し、スライドドアを外し、浴室までの導線を改善しました。

・左半身がほぼ動かなかった状態でしたが、少しずつ動くようになっており、びっくりしています。

なによりいろいろな表情が戻ってきて、特に笑顔が見えたことは、皆さんの温かな対応と愛情のなせる技と感謝しております。

【回答】 ありがとうございます。患者さまの笑顔が増えるよう、尽力致したいと存じます。

・ベッドが固い

【回答】 できる限り患者さまのご要望に応じ、提供するよう努力いたします。

・外の景色が見られず、圧迫感があり刺激に乏しい

【回答】 転落の危険があるため、窓を全開にすることはできませんので、入院中は屋外歩行や外気浴にて、気分転換して頂けるよう配慮しております。

貴重なご意見ありがとうございました！！

## ◆ 平成30年9月～12月入院患者数と紹介元医療機関

9月から12月の4か月間における新入院患者は157名、紹介元医療機関は以下の通りです。

(順不同、敬称略)

TMGあさか医療センター、大月市立病院、荻窪病院、金沢脳神経外科病院、河北総合病院、関東中央病院、吉祥寺南病院、杏林大学医学部付属病院、久我山病院、圏央所沢病院、公立昭和病院、国立国際医療研究センター病院、越川病院、彩の国東大宮メディカルセンター、佐々総合病院、賛育会病院、順天堂大学医学部附属練馬病院、苑田第二病院、第三北品川病院、滝山病院、田中脳神経外科病院、千葉大学医学部附属病院、調布病院、東京医科大学病院、東京衛生病院、東京警察病院、東京女子医科大学病院、東京大学医学部附属病院、東京都済生会中央病院、東京山手メディカルセンター、東京労災病院、東邦大大橋病院、都立広尾病院、西東京中央総合病院、日本医科大学武蔵小杉病院、練馬総合病院、練馬光が丘病院、八王子脊椎外科クリニック、浜田山病院、東大和病院、日野市立病院、福島赤十字病院、三井記念病院、武蔵野赤十字病院、目白病院、目白第二病院、山中病院、山梨県立中央病院 他2カ所

以上、50か所 ご紹介ありがとうございました。

## ～当院の現況～

	平成30年10月	平成30年11月	平成30年12月
ベッド稼働率	97.2%	99.5%	98.0%
入院延べ患者数	3,077人	3,059人	3,110人

在宅復帰率(直近3ヶ月)…89.2%

重症患者割合(直近6ヶ月)…42.9%

重症患者回復病棟改善割合(直近6ヶ月)…47.7%

※日常生活機能評価で10点以上の新規患者割合

※重症患者のうち4点以上改善している者の割合

## 交通のご案内



■JR中央線・総武線 西荻窪駅下車 北口 徒歩2分

## 編集後記

当院が回復期専門病院に生まれ変わって以来、さまざまな課題に直面してきましたが、その最たるものは医療安全面における患者さまの「転倒・転落」になります。当院では多職種協働のチーム医療にて解決策を立案・実践、またその取り組みや結果を全国学会や上尾中央医科グループ内の報告会などに発表することにより、その質を高めてまいりました。今号は回復期リハビリにおけるリスク管理について特集いたしました。参考にさせていただけたら幸いです(編集委員)

医療法人社団 哺育会  
杉並リハビリテーション病院

内科・リハビリテーション科

- 発行 行：杉並リハビリテーション病院
- 発行責任者：門脇 親房
- 編集 集：総務課

<http://www.suginami-reha-tokyo.jp/>

〒167-0042

東京都杉並区西荻北 2-5-5

TEL:03-3396-3181 (代)



Facebook でも最新情報

を配信中♪